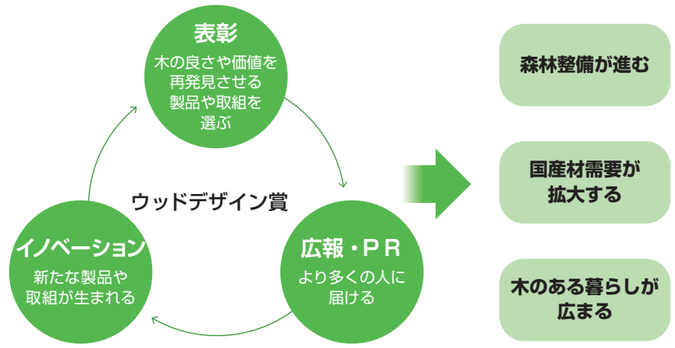
ウッドデザイン賞 2016

上位受賞作品のご紹介

JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2016

ウッドデザイン賞とは

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという３つの消費者視点から、優れた製品・取組等を表彰するものです。



ウッドデザイン賞2016実施概要

●**主催**：ウッドデザイン賞運営事務局
（（特）活木活木森ネットワーク、（公社）国土緑化推進機構、（株）ユニバーサルデザイン総合研究所）

●**林野庁補助事業**

●**募集期間**：2016年6月20日（月）～7月27日（水）

●**応募対象分野**

❶建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
❷木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、おもちゃ等
❸コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
❹技術・研究分野	技術、研究・調査、試作品等

●**表彰部門**

ライフスタイル デザイン部門

木を使って
暮らしの質を
高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って
人の心を豊かにし、
身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や感性に働きかける、リラックス効果や健康増進効果がある、作り手や担い手のストーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って
地域や社会を
活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢献している、持続可能な森林利用の仕組みを生み出している、木材利用の意味を啓発したり、人材育成をしている、建築、空間、木製品、取組、技術・研究など。

●**応募～発表・PRまでの主な流れ**

応募受付期間（6月20日～7月27日）➡**第一次審査**（書類審査）➡**第二次審査**（現物等審査）
➡**ウッドデザイン賞発表**（10月24日）➡**最終審査**
➡**最優秀賞等発表・表彰**（12月8日）➡**ブックレット・展示会等でのPR**

裏面で上位賞の作品紹介をしています➡

審査委員からのメッセージ

審査委員長

赤池　学（プロジェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト）

第２回となるウッドデザイン賞は作品のレベルは格段に向上しており、本賞の目指すものが多くの事業者や地域に理解いただけてきたと嬉しく感じている。多様な連携によって新価値創造につなげている実践や、少子高齢化・防災といった社会的課題を木材利用によって解決しようという試み、木の機能や効能を引き出す技術・工法も数多く見られた。木と人という同じ命が寄り添う意味をメッセージしてくれる先駆的なモデルを、消費者の皆さんにもさまざまな専門家の方々にも、是非、感じて欲しい。

★分野長

建築・空間・建材・部材分野

The Courier

隈　研吾（建築家、東京大学教授）★

昨年から始まったウッドデザイン賞だが、今年はさらに応募作品の質の向上が見られた。改めて新しい木の使い方、使うための技術、素材などの開発が進んでいることが読み取れて嬉しく思う。2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催などを契機に、日本の木づかいは海外からの注目を今後も集めていくだろう。ウッドデザイン賞はその先進例が集まる賞として期待している。

腰原　幹雄（東京大学　生産技術研究所　教授）

日本には千年以上の木造建築の歴史があるが、私たちはその時と同じライフスタイルで暮らしているわけではない。今の生活スタイル、森林資源を考えた社会システムの中で木を使うことを考えていく必要がある。そのためには構造や防耐火の技術、材料の耐久性も考えなくてはならない。ただ木を使うだけではなく、楽しく使っていく。多様な木の使い方の提案があったことを嬉しく感じている。

鈴木　恵千代（空間デザイナー）

ウッドデザイン賞で出合った素材を、空間づくりという自分の仕事の中でも活かしているが、とても評判が良い。今まで注目されなかった素材や、身近な杉材でも大胆な構造が見られ、大いに参考になった。ウッドデザインという考え方は、日本の産業や自然環境に大きな影響を与えうるもの。プロから一般の方まで、木の持つポテンシャルを感じてもらえるのではないかと思う。

手塚　由比（建築家）

木材はいわゆる人工材料とは違う、魅力的な材料だと思っている。ウッドデザイン賞への応募作品を見ていると、伝統的な使い方に縛られず、木でこんなこともできる、こんなところにも使えるという可能性が見えて楽しい。木は育ってきた土、光、水の恵みを感じられる素材。木材になってもそれが感じられるような、人に優しい社会がつくられていくことを望んでいる。

木製品分野

益田　文和（プロダクトデザイナー）★

日本という国で調達できる材料は限られている。木を使うことは必然であったにも関わらず、最近ではそうではなくなったこと自体が問題である。世界的に見ても恵まれた森林資源を活かす、何でもまず木でつくってみることが基本なのだ。かつてのように木を使ってさまざまなものをつくりだす、ウッドデザイン賞がそんなきっかけになることを期待している。

末吉　里花（一般社団法人エシカル協会代表理事）

ウッドデザイン賞の審査は初めてだったが、木を使った作品がこれほど広く展開できることに驚いた。人、社会、環境、地域に配慮したエシカルという考え方から見ると、製品の背景やストーリーがわかるものは魅力がある。売る人、買う人、作る人、自然、未来の五方よしの作品が多く見られ、皆さんが日常で身近に木を感じることができるきっかけになることを期待したい。

髙橋　正美（デザイナー、コンセプター）

第１回で素材の提案をされたものがプロダクトへ進化しているなど、ウッドデザイン賞の審査を通じて新たな進化が見られた。地域材を使って子どもたちに技術や工法を伝え、コミュニケーションが生まれる活動など、成果物としてのプロダクトを超え、木づかいを通じて私たちの未来を活性化させてくれる。関わる方々の思いや意識がプロダクトの背景にあることを嬉しく感じた。

三谷　龍二（木工デザイナー）

自分の生活を見ていると、意外に身近に無垢の木がないことに気づく。森へ行くと心が澄んだ感じになる。木を使うことは、心の安定につながる。自然素材を暮らしへ取り込むことは意義深いことなのである。木を使った製品は長く使ってもらうことが大切。生活と木がうまく循環する、そのデザインが求められているのである。

コミュニケーション分野

日比野　克彦（アーティスト、東京芸術大学　教授）★

アルゼンチンの首都ブエノスアイレスのサン・マルティン広場に、木のベンチがある…と思いきや、巨大なゴムの木の幹から巨大な枝が地面スレスレにいい具合に延びていた姿でした。高さ20m、幹周り10m、枝が覆う直径は30mくらいはある。私は初めて訪れたアルゼンチンの人柄が、この木に出ているような気がした。木は人に近いのかもしれない…。そんなウッドデザインに出会えることをこれからも期待したいです。

戸村　亜紀（クリエイティブディレクター）

コミュニケーション分野への応募は、木を主役にしたイベントやワークショップが多く見られ、一般の人にもっと参加して欲しいと感じられる魅力的なものもたくさんあった。参加を通じて、木の仕事をしていなくても「こんな製品があったらいいなあ」など木に関わる人に意見や思いを届けるような場にこうした活動が育って欲しいと思う。

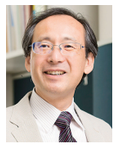
古田　秘馬（プロジェクトデザイナー）

昨今、デザインという言葉が幅広い領域に使われるようになった。その背景には、ただものをつくるというだけでなく、さまざまな人や地域がひとつのプロダクトやプロジェクトに関係するようになった事実がある。コミュニケーション分野として評価すべきは、消費者と作り手だけでなく、森を守る人や街をつくる人など多くの人々が関われるプラットフォームであることである。こうした活動に着目し、身近な取組や地域を再認識して欲しい。

山崎　亮（コミュニティデザイナー、東北芸術工科大学　教授）

「公園の父」と称された林学博士の本田静六氏は、「産湯のたらいから棺桶までこれなくしては生きていけない木材」と語っているが、その木材が最近は別の素材に置き換えられてきた。ウッドデザイン賞を審査していると、過去に戻るのではなく、新しい形で生活空間の中で木材を使う可能性への期待に包まれる。身近な空間での木材利用を改めて考えて欲しい。

技術・研究分野



伊香賀　俊治（慶應義塾大学大学院　教授）★

木という素材が持つリラックス効果、健康効果などのエビデンスを示しているものも多く、木の良さを知らしめながら、使い方の可能性を広げていく提案が増えたと感じている。新たな木の可能性を感じ、受賞作品を是非じっくり見ていただきたい。木の良さを日常生活の中で実感できるような研究、技術をこれからも期待している。

相茶　正彦（木材・バイオマス利用コンサルタント）

私はバイオマスの研究をしているが、木材利用の視点から見ても広がりがある分野だと思っている。構造や機能などの木の新しい使い方に加え、木の成分活用、そのアプリケーションとしての新たな用途開発に期待している。ウッドデザイン賞の受賞作品をヒントにして、これまで木を使うことが少なかった事業者にも使っていただき、それが消費者メリットにつながることを願っている。

青木　謙治（東京大学大学院　講師）

技術・研究分野は今までにない木の使い方にチャレンジし、かつそのための技術の裏付け、科学的なエビデンスを示していくことが重要である。試作品も、それを開発するに至った経緯や将来、それをどう使うのかのビジョンが必要である。受賞作品を通じ、これまで想像もしていなかったような木材の使い方に気づいていただけると思う。

恒次　祐子（森林総合研究所　主任研究員）

審査する立場として、大きな技術革新でなくてもきらりと光るようなアイデアや今まで誰も目をつけていなかったような独創性を掘り出していきたいと考えている。木材は身近な素材であるゆえ普段は意識することが少ないかもしれないが、木の良さは科学的に研究され人の心と身体に良い影響を与えることがわかってきている。木を使った健やかで快適な暮らしを感じて欲しい。

←裏面で上位賞の作品紹介をしています

受賞後の展開について

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

●ウッドデザイン・マークの使用

ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザイン・マークの使用が認められます。
マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。

ウッドデザイン・マークのデザインについて

日本の豊かな森の恵みを表す三角形に、「WOOD　DESIGN」（W）を重ねたイメージ。アンシンメトリー（左右非対称）に連なる造形は、暮らしを豊かに、人を健やかに、地域と社会を活性化する多彩なスケールの木づかいが生まれていく、という意味を込めています。

デザイナー：則武　弥

●「エコプロダクツ2016」における発表、表彰及び広報

最優秀賞等の発表、表彰、及びウッドデザイン賞の受賞作品の展示を「エコプロダクツ2016」（発表・表彰は2016年12月８日、展示は12月８日～ 10日・東京ビッグサイト）にて行います。

●「ウッドデザイン　コンセプトブック2016」の製作

ウッドデザイン賞の受賞作品を全点掲載したブックレットを製作し、受賞者とともに自治体や関連業界へ配布します。
受賞作品の広報・ＰＲにお使いいただけます。

●地域巡回展の実施・巡回展パッケージ

各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びＰＲを行います。
また、ウッドデザイン賞の広報活動に御協力いただける団体、事業者向けに展示パッケージをご用意しております。

●メディア・流通小売との連携企画の推進

メディアや流通小売業と連携して、ウッドデザイン賞の趣旨を伝えるとともに、
受賞作品の掲載・露出・ＰＲを積極的に行います。

●公式ウェブサイト

http://www.wooddesign.jp/

ウッドデザイン賞に関する最新のイベント・展示情報や次回開催のお知らせなどを随時、更新しています。

●ウッドデザイン・サポート連絡会

私たちはウッドデザイン賞を応援しています。

美しい森林づくり全国推進会議
一般社団法人 木と住まい研究協会
公益社団法人 国際観光施設協会
国産材製材協会
一般社団法人 JBN
一般社団法人 全国LVL協会
全国森林組合連合会
一般社団法人 全国中小建築工事業団体連合会
全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会
一般社団法人 全国木材組合連合会
一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会
一般社団法人 全日本木材市場連盟
一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会
一般社団法人 日本オフィス家具協会
特定非営利活動法人 日本グッド・トイ委員会
一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会
公益社団法人 日本建築士会連合会
日本合板工業組合連合会
日本集成材工業協同組合
公益財団法人 日本住宅・木材技術センター
一般社団法人 日本森林学会
日本複合・防音床材工業会
一般社団法人 日本フローリング工業会
一般社団法人 日本木材学会
一般財団法人 日本木材総合情報センター
日本木材防腐工業組合
一般社団法人 日本木造住宅産業協会
公益財団法人 木材・合板博物館
木材利用システム研究会
森を育む紙製飲料容器普及協議会
林業復活・地域創生を推進する国民会議

（五十音順）

このパンフレットの用紙は、間伐材を活用しています。

最優秀賞（農林水産大臣賞）

（　）内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、
一般に流通しているもの・特に該当しないものは主な受賞団体所在地です。

コンセプトカー　SETSUNA（愛知）

トヨタ自動車㈱　　技術・研究分野

「SETSUNA」のコンセプトである「歳月を経て変わることを愛でる」を木を用いて具現化したものである。木は手を掛けいたわることで色や風合いが変わり、愛情を注ぎ幾世代も受け継ぐことで、その家族だけのクルマへと変化する。
コンセプトの表現として、外板は杉、フレームには樺といった用途に応じた木材の選定をし、一つ一つのパーツの大小や配列にもこだわった。組み付け構造には釘やネジを使用しない日本古来の伝統技法である送り蟻などを取り入れ、ボディラインは船のような美しいカーブを描く。さらに、世代を超えて時を刻む100年メーターや、機能美と木の優しい色合いが融合したシートなど、歳月を経て輝きを増す。
自動車づくりの専門性と木材利用の専門性が協働した優れたプロジェクトであり、多様な業種、分野において、消費者目線で木材を積極的に活用するという明確な目的を満たしており、ウッドデザイン賞の主旨に最もふさわしい。こうした先導的な役割を担う取組が、医療・福祉機器をはじめとする他の業種・業態へ木材利用を波及させるための模範例となりうる。

優秀賞（林野庁長官賞）

（　）内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しない

Jパネル（鳥取）

協同組合レングス

建材・部材分野

「よりよい環境と健全な森を取り戻したい。地震にも台風にも火災にも強い家がいい。木の良さはそのままに性能や品質も求めたい」との思いから生まれた。国産材のスギ・ヒノキを100%原料とした直交集成板で薄型のCLTでは唯一の先駆的モデルである。寸法安定性、蓄熱や調湿性に優れ、用途は木造軸組工法における床・天井・壁・軒裏などの仕上げ材を兼ねた構造用面材や造付け家具など幅広く、地域材の利用拡大に貢献している。

耐震補強技術 T-FoRest（大阪）

㈱竹中工務店

技術・研究分野

CLT、集成材、LVL等のエンジニアリングウッドの高強度性や加工性、軽量可搬性を活かし、RC造等の大規模建築物の耐震補強を行う木質系耐震補強システム。CLT・LVLは接着剤、集成材プレースはバネの力を利用して固定し、振動や騒音がほとんどなく工期短縮もできる。木造を木で補強する事例は多数存在するが、RC造建築物を木で補強する例は新規性があり、機能性重視に偏りがちな技術ながらデザイン的にもよくまとまっている。国土強靭化と木材利用を両立させた良質な取組である。

Roll Press Wood（山形）

㈱天童木工

技術・研究分野

軟質がゆえ、家具用材としては不向きとされてきた杉などの針葉樹を、独自開発のロールプレス工法で強度を高めた単板へと変え、その単板を重ね合わせて型で曲げて成形し自由な曲線を持つ丈夫な部材を作る、世界初の技術である。ローラーで連続的に圧密する工法のため、熱を加える時間が短く自然な色を残せるほか、連続作業によって大量圧密化が可能となった。日本各地の軟質針葉樹に優れた機能を付加する技術であり、木材の耐久性、耐候性を高める素材開発方法として新規性が高く、デザイン的、機能的な用途拡大に貢献している。

奨励賞（審査委員長賞）

（　）内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しない

「木とくらす」～はたらく、まなぶ～（東京）

㈱内田洋行、㈱良品計画、㈲サンケイ、パワープレイス㈱

コミュニケーション分野

杉本来の特性を生かした心地良いオフィス家具として「働く場」や「学ぶ場」に新しい価値と市場を生み出す。産地に貢献する生産システムを採用し、国産杉の使用用途の拡大に貢献する。

えちごトキめきリゾート雪月花（新潟）

ICHIBANSEN / nextstations、えちごトキめき鉄道㈱、㈱天童木工、㈱ビッグウィル、新潟トランシス㈱、㈱ニッタクス

建築・空間分野

新潟県の観光列車で妙高山や日本海などの絶景を楽しむ。車内エリアごとに杉、樺桜、桐などを使い分けた。日本最大級の側窓や世界で唯一の前面展望を専有できる個室も備え、五感で楽しめる唯一無二の旅を提供する。

Augmenter（静岡）

㈲豊岡クラフト

木製品分野

0.1㎜単位の加工技術と伝統の遠州織物がコラボした木製バック。国産材桜を用いたクラッチバッグ・ハンドバッグはデザインもよく、日常的な使い勝手の良さと洋・和装両方にフィットしそうな意匠性を合わせ持つ。

「くむんだー」木のジャングルジム（滋賀）

川村克己

木製品分野

子供たちと一緒に組む組み立てる木のジャングルジム。創造と遊びを通じて木の良さを感じたり、知らない子ども同士がコミュニケーションし、あと片づけも共同で行なうという気持ちも自然に生まれる木育玩具。

住まいと暮らしサロン（埼玉）

㈱アキュラホーム、㈱ホルツストラ、河野泰治アトリエ、㈱篠原商店

建築・空間分野

一般流通材と一般加工・施工技術で建てた日本初の中規模3階建て木造建築。空間は美しく仕上がっており、社会提案性の高い取組。地域のイベント空間としても活用され、木材利用の普及啓発の点でも意義がある。

信州型　木製遮音壁（長野）

長野県産材販路開拓協議会

木製品分野

長野県のカラマツ材の有効利用を考え、「木が使える所に当たり前に木を使いたい」という想いから生まれた木製遮音壁。高速道路、住宅街や工業団地、保育園の騒音問題など幅広い社会インフラ分野で活用が期待できる。

ものは主な受賞団体所在地です。

ライフスタイルデザイン部門　ハートフルデザイン部門　ソーシャルデザイン部門

日本橋とやま館「富山らしさを表現する木づかい」（東京）

富山県、㈱乃村工藝社

建築・空間分野

富山県のアンテナショップであり、産地に眠っていた原木、製材品、加工品などさまざまな工程段階の木材を現地で選定、調達しデザインしている。巨大な立山連峰をイメージした木格子壁はインパクトがあり、ナラ虫食い材の利用やクリ・ナラなどの異種材の幅はぎ材をテーブル天板に使うなど素材と加工のバリエーションで木材利用の可能性を引き出している。地域の魅力発信と地域材の利活用が高次元に融合した空間として、富山の木から富山の価値を生み出すプロセスを通じて地域に貢献するという強い責任感と愛着を生みだしている。

新柏クリニック（千葉）

医療法人社団中郷会　新柏クリニック、㈱竹中工務店

建築・空間分野

透析治療を行う方々の負担感を軽減し、心身の健康につながる最良の医療施設を目指し、木の癒し効果に着目した「森林浴のできるクリニック」づくりに取り組んだ。本物の国産木材の利用にこだわり、新しい防耐火技術の導入により都市部において木造・木質化された医療施設を実現した。人間の心身に好影響を及ぼす木は、本来、医療施設に使われることが理想的だが、衛生面やメンテナンス面、コスト面で敬遠されてきた。こうした分野での木造建築は大きな意義がある。屋外の眺望と一体化した、美しい木質空間は患者の心に安らぎを与えてくれる。

産学官連携「病院木質化プロジェクト」（北海道）

㈱ハルキ、札幌市立大学看護学部、北海道渡島総合振興局産業振興部林務課、パワーブレイス㈱、㈱セントラルユニ、㈱アイ・ビー・エス

技術・研究分野

産学官が連携し、通常は無機質な病室空間に地域材を活用するため、ウッドインフィル「病室ユニット」を開発・試作した。さらにウィルスや細菌、アルコール消毒等に対する木材への影響を調査し、地域材の需要消費拡大・付加価値向上・ブランド化を目指している。木の癒し効果や精神安定効果は病院施設にとって有用なものであり、高齢化を迎える社会背景からもそのニーズは高い。本作品の新規性は改築を必要とせず、ユニットで提供できる点にあり、一般の病院での普及促進の可能性を持っている。導入後のエビデンスの収集にも期待したい。

堀切の家（東京）

桜設計集団一級建築士事務所、櫻井登志子、藤原恵子、鯰組

建築・空間分野

「地産都消の実践（つくる）」「技術・性能の裏付けを持つ（つかう）」「耐久性確保とメンテナンスの容易性（つなぐ）」をコンセプトとした、木造密集市街地（準防火地域）に建つ木造2階建て住宅で、材をあらわしにしながらも地震や火事に負けない設計上の配慮を随所に施している点は社会提案性に優れる。都市部で木造建築物を計画する際のすべてのソリューションを網羅しているお手本のような物件である。材をあらわしにした建物外観や外構は、街にやすらぎを与えることにもつながっている。

平成28年熊本地震における木造応急仮設住宅の供給（熊本）

（公社）日本建築士会連合会、（一社）木と住まい研究協会

建築・空間分野

被災された方々が安らぎある生活を早く送れるよう、熊本県産の木材を多用した応急仮設住宅を企画し熊本県に提案したもの。地元の事業者を斡旋し、材料調達や施工などで地元事業者が連携し、宇城市で60戸を建設した。応急仮設の木造住宅として、普段手に入るもの、地元でつくれるものというコンセプトが素晴らしく、その仕組みと活動実績が高く評価された。3週間という短工期で完成できる点も重要である。災害国・日本における被災地対応と地域材・地域資源の活用の両立という点において、社会性の高い取組である。

大工と組む わが家再生（愛知）

㈱新和建設

コミュニケーション分野

つくり手技術集団が住まい手をエスコートする安心のわが家再生を実現する活動。技術を持つ大工と、地域の優れた木材、システム化された工程・品質管理により均一化した品質で、計画的に木造民家を再生できるビジネスモデルであり、地域特性と100年を超える民家再生、大工のノウハウ導入といった多様な側面を持つ。木造民家の多い地域における空き家問題を未然に防ぐ仕組みを目指している。ストック住宅は社会的課題であり、木造民家をストック化させず、暮らしの質の向上と地域材の利活用を両立させる社会提案性の高さが光る。

ものは主な受賞団体所在地です。

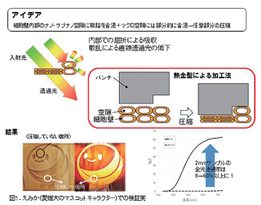
ライフスタイルデザイン部門　ハートフルデザイン部門　ソーシャルデザイン部門

iLignosシステム手帳（愛知）

名古屋木材㈱

木製品分野

柔軟性を備えた曲がる吉野杉をカバーに用いた木製のシステム手帳。軽量で携帯しやすくその柔らかさと木材本来の質感や風合い、温もりが味わえる。暮らしを彩る木づかいの提案として良質なデザイン。



任意部位の光透過性を向上させた木材（愛媛）

愛媛大学農学部森林資源コース森林資源利用システム研究室　杉元宏行

技術・研究分野

木材の圧密化を制御し光の乱反射を発生させ、任意部位のみ光透過性を向上させる加工技術。LEDやセンサーの配置によって照明やスイッチングの機能を木材に与えるなど、車両や家電、建築への利用が期待できる。

大和棟と大和塀のある古民家（奈良）

末吉高明、㈱貴志環境企画室、唐内工務店

建築・空間分野

大和棟を持つ江戸時代から残る古民家のリノベーションの提案。地域特有の形式の継承と、奈良県産材を利用しつつ、日本建築の良さ、美しさを伝えている。隣接する寺院や民家と一体になった景観保全も意義深い。

kids furniture（岐阜）

飛騨産業㈱

木製品分野

「圧縮」「曲げ」など本格的な木工技術を生かした椅子で、杉の無垢材だが軽量化と強度を兼ね備え、丸みを帯びたデザインが独特の柔らかさを演出している。人間工学の観点から年齢ごとに最適なサイズを導き出した。

日本の木と技が創る超軽量家具（東京）

㈱KOMA

木製品分野

広葉樹の強度と粘度、針葉樹の軽量、柔らかさなどの特性を活かしたハイブリッド木製家具。熟練職人の手仕上げにより、極限まで無駄を削ぎ落とすシャープさと柔らかな温かみが調和したデザインが目を引く。

雪洞（長野）

㈲柳澤木工所

木製品分野

電気スタンドシェードのデザインを踏襲した木製吊り下げ式ランプ。「拭き漆」を模した色と白い和紙のコントラストは和みをもたらす「用の美」。古民家カフェなど現代のライフスタイルへもマッチする魅力があるデザイン。

授産施設で生産するデザイン性の高い木製品の開発（北海道）

（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場、札幌市立大学デザイン学部、（福）当麻かたるべの森

技術・研究分野

大学・授産施設・公設研究機関の連携で、障がい者が生産に携わることができる、デザイン性の高い木製品を開発した。障がい者の仕事づくりと地域材の有効活用を目的とした、ストーリー性のある取組である。

組手什協議会による熊本震災支援（熊本）

組手什おかげまわし協議会、あいちの木で家を造る会、賀露おやじの会、福島県古殿町、登米森林組合、日本の森バイオマスネットワーク

コミュニケーション分野

各地の森林から間伐小径材、製材端材より生産される組手什を生産地8カ所から集荷し震災の避難所へ提供した。短期間で多くの資材を集め、被災地支援と地域材活用の両輪を回した良質な取組である。

ヤブクグリ（大分）

ヤブクグリ、寶屋、㈱トライ・ウッド、マルゲン㈱

コミュニケーション分野

林業、木材関連からデザイナー、大工、編集者など多彩な専門家の協働による「木」をテーマにしたコミュニティ・プラットフォーム。木製の弁当箱とメニュー開発を同時に進めるなど、地域資源を複合的に組み合わせた点が有効である。

ウッドデザイン賞2016結果

●総応募数　451点　●受賞数　251点

●最優秀賞　1点　●優秀賞　9点　●奨励賞　15点

Webサイトより全ての受賞作品についてご覧いただけます。

https://www.wooddesign.jp/

「エコプロダクツ2015」の展示風景